

2 野 菜

項 目	作 業 内 容																																						
<p>(1)果菜類の定植</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○果菜類の定植 ○いちごの栽培管理 ○なすのバンカー栽培 <p>5月は、露地（雨よけ）果菜類の定植時期となる。この時期の天気は数日周期で変わることが多いため、苗の生育や気象情報に留意し、適期に定植できるよう本ぽ準備を早めに開始する。</p> <p>ア ほ場準備</p> <p>作付けするほ場は、耕土が深く、保水性・排水性の良い場所を選び、あらかじめ完熟堆肥等を施用して深く耕しておく。</p> <p>表1を参照に、土壤改良資材を施用し、土壤pHを適正範囲に整えておく。</p> <p>各作目の畝幅及び株間、基肥の施用量は、表2を目安とする。マルチは、定植前までに条件の良い日を選んで張っておく。</p> <p>表2 果菜類の種類と栽植密度、基肥の目安</p> <table border="1" data-bbox="483 1290 1426 1509"> <thead> <tr> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">畝幅 (m)</th> <th rowspan="2">株間 (cm)</th> <th rowspan="2">条</th> <th colspan="3">基肥 (kg/10a) ※</th> </tr> <tr> <th>チッ素</th> <th>リン酸</th> <th>カリ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>きゅうり</td> <td>1.5</td> <td>70～80</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>なす</td> <td>2.0</td> <td>60～70</td> <td>1</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>トマト (雨よけ)</td> <td>1.8</td> <td>50～60</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>20</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>ピーマン</td> <td>1.4</td> <td>50～60</td> <td>1</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※施肥量は愛媛県施肥基準による（成分量）</p> <p>イ 定植</p> <p>天気の良い、暖かい日を選んで定植する。きゅうりでは本葉3枚程度、なす・トマト・ピーマンでは1番花(房)が咲き始めている苗が定植適期である。根鉢を崩さないよう丁寧に植え付け、深植えになっていないか確認する。定植後はすみやかに仮支柱を立て、十分量かん水して活着を促す。</p>	種類	畝幅 (m)	株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※			チッ素	リン酸	カリ	きゅうり	1.5	70～80	1	20	30	18	なす	2.0	60～70	1	20	20	18	トマト (雨よけ)	1.8	50～60	2	15	20	15	ピーマン	1.4	50～60	1	18	15	14
種類	畝幅 (m)					株間 (cm)	条	基肥 (kg/10a) ※																															
		チッ素	リン酸	カリ																																			
きゅうり	1.5	70～80	1	20	30	18																																	
なす	2.0	60～70	1	20	20	18																																	
トマト (雨よけ)	1.8	50～60	2	15	20	15																																	
ピーマン	1.4	50～60	1	18	15	14																																	

表1 野菜の種類と好適pH

種類	好適pH
きゅうり	5.6～7.0
なす	5.5～7.0
トマト	6.2～7.0
ピーマン	5.5～6.0

項 目	作 業 内 容
(2)いちごの栽培管理	<p>ア 高設栽培の給液管理 いちごの高設栽培では、5月末ごろまで収穫が行われるが、気温や日射量の上昇に伴って吸水量が増加するため、定期的に排液量を確認、培地が乾燥しないよう給液回数や時間を調整する。培地量の少ない高設栽培システムでは、特に注意して様子を見る。</p> <p>イ 品質低下の防止 (ア) 高温期には果実品質が低下しやすいので、採り遅れないようにする（過熟果、黒ずみ果、ズルケ果を混入しない）。 (イ) 果実温度の低い早朝に収穫し、予冷を徹底しながらパックに詰めていく。 (ウ) 適宜摘果し、大玉生産に終盤まで努める。 (エ) アザミウマ類の被害果を防止するため、花をよく観察して薬剤防除する。また、ハウス内外を除草する。</p> <p>ウ 親株床の管理 揃いの良い子苗を多く確保するには、4月下旬までに発生したランナーを除去し、5月以降に発生するランナーから子苗を採取するのが重要である。土壌の乾燥、親株の肥料切れが起こると、ランナーが発生しにくくなるため、適宜かん水・追肥を行う。親株の古葉や枯葉、病葉、花房等は随時除去するとともに、炭疽病、うどんこ病、アブラムシ類、ハダニ類、アザミウマ類の防除を怠らない。</p> <p>エ 採苗（鉢受け） 太く充実したランナーを選び、本葉 1～2 枚の子苗をポットに受け、クリップ等で固定する。鉢受け後、培土が乾燥していると活着が遅れるので、チューブ等で随時かん水する。最終鉢受けの10日～2週間後、ポットの底穴に根が達したところにランナーを切り離す。</p>
(3)なすのバンカー栽培	<p>なすのほ場外周にソルゴーを播種するバンカー栽培は、土着天敵を増殖させ、ミナミキイロアザミウマやアブラムシ類といったなす害虫の密度を低下させることができる(次ページ写真)。また、防風効果も期待できる。ソルゴーの播種は、晩霜の心配がなくなる5月上旬ごろに、ほ場周囲（なすから1～2m離れたところ）に1～2条の条播とする。必要なソルゴー種子量は200～400 g/10a程度である。基肥はなくても良いが、生育が悪ければ株元に化成肥料を施用する。5月上旬に播種すると、8月には1.5～2m、</p>

項 目	作 業 内 容
	<p data-bbox="486 286 1388 465">9月には2～3m の高さになる。9月下旬ごろに開花するが、ソルゴー花粉でナス果実が汚れるため、出穂期にすみやかにソルゴー穂を刈り取る。また、強風時には倒伏する恐れがあるため、あらかじめ杭を打ち、マイカー線等で補強しておく。</p>  <p data-bbox="606 1106 1268 1142">写真 ナスほ場に植えたバンカー植物（ソルゴー）</p>

(作成 農林水産研究所)